

令和3年度 木曾悠久の森管理委員会 議事概要（公表）

開催日時 及び場所	令和4年3月8日（火）13:30～15:00 Webによるオンライン方式
出席委員 （五十音順）	<p>青山 節児 （中津川市長）</p> <p>飯尾 歩 （中日新聞社 論説委員）</p> <p>大浦 由美 （和歌山大学観光学部 教授）</p> <p>大住 克博 （鳥取大学農学部 名誉教授）</p> <p>岡野 哲郎 （信州大学農学部 教授）</p> <p>勝野 智明 （木曾官材市売協同組合 理事長）</p> <p>下嶋 聖 （東京農業大学地域環境科学部 准教授）</p> <p>早川 正人 （付知町まちづくり協議会 会長）</p> <p>正木 隆 （（国研）森林研究・整備機構 森林総合研究所 研究ディレクター）</p> <p>増田 正昭 （信濃毎日新聞社 編集委員）</p> <p>山本 進一 （豊橋技術科学大学 理事・副学長）（座長）</p> <p>山本 博一 （東京大学 名誉教授）</p> <p>横山 隆一 （（公財）日本自然保護協会 参与）</p> <p>委員 16名中13名出席</p>
議題	<p>（1） 木曾谷森林レクリエーション地区管理経営方針書（赤沢自然休養林）の変更について（継続審議）</p> <p>（2） 植生管理専門部会（令和4年12月13日開催）の開催結果について</p> <p>（3） 木曾谷森林計画区 地域管理経営計画等の策定について</p> <p>（4） PR 関係について</p> <p>（5） その他</p>
概要	<p>【委員からの主な意見等】</p> <p>（1） 木曾谷森林レクリエーション地区管理経営方針書（赤沢自然休養林）の変更について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 木曾の歴史や文化を見れば分かるように地元はヒノキ林に支えられてきた経緯があることから、今後も美林を後世に残していただきたい。アスナロ除去に係る修文に感謝。 ・ 赤沢自然休養林は情報発信の場としても重要。 ・ アスナロ除去等をなぜここでは実施し、ここでは実施しないのかといったことについて看板の設置などにより説明が必要である。 <p>（この他文意明確化の観点からご意見があり微修正の上で、承認いただいた。）</p>

(2) 植生管理専門部会の開催結果について

- ・赤沢自然休養林における危険木処理等の歩道管理については、ゾーニングをしっかりとしながら、どこまでできるかを今後議論して明確化していった方がよい。
- ・植生管理専門部会の議事概要について、再度確認の上、要すれば修正いただきたい。

(3) 木曾谷森林計画区 地域管理経営計画等の策定について

- ・新計画では間伐が随分減っているが、その理由を教えてください。
- ・新計画では天然更新が随分増えているが、天然更新の方法について、教えてほしい。

(4) PR 関係について

- ・オンラインの活用も含め、職員や委員等で確認悠久の森の価値や意義を再確認するような会をまずは実施されるとよい。
- ・一般に広く PR することも必要であるが、地元の人などにもっと知ってもらい協力を得ることも重要である。
- ・検討する体制には、女性をより積極的に参画させた方がよい。
- ・PR においては、ジェンダーの視点にも留意してはどうか。
- ・3D プリンタで作成した悠久の森の地形モデルを使い、地形の観点から理解してもらうことも、PR に有効ではないか。
- ・悠久の森について教育現場のカリキュラムの中に組み込んでいくことも大事ではないか。
- ・SDGs と絡める等して、PR の広さ深さも検討してはどうか。

(5) その他

- ・歩道周辺のアスナロ除去についての具体的な指針を作成するべき。
- ・指針については、植生管理専門部会と森林総合利用・地域振興専門部会とが合同で、現地を見ながら議論するのも良い。
- ・悠久の森を今後作り上げていく中では、先人たちが受け継いできた経験知も大切にしたい。

以 上